

# 里村穰の国語科（第3学年）研究計画

## 1 本研究の位置付け

今次の学習指導要領で、「読むこと」では、「自分の考えの形成及び交流」に関する指導事項が新設された。自分の考えを形成するための読みの力が求められている。第3学年及び第4学年の「C読むこと」(2)内容①指導事項エの解説では、「自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、引用や要約をすることを示している」とある。これを、自分の考えを形成するための読みの力（資質・能力）であると捉える。

この資質・能力を育むため、本研究では、説明的な文章を教材とし、**自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れる子ども**を目指す。この姿は、文章にある複数の情報を比較して自分に必要な情報を判断し、必要だと判断した情報を要約したり、引用したりして、自分の考えをまとめている姿である。

これまで、目的をもたせた読みの指導や、要約の指導がされてきた。しかし、それらの多くは、書き手の伝えたい事柄や考えを読み取るためのものであり、読み手（自分）の考えに活かそうという目的の読みや要約になっていない。そのため、複数ある情報の中から自分に必要な情報を判断して読み、その情報を引用することができていなかった。その結果、読後に自分の考えを問われても、考えをまとめられないでいる子どもの姿が見られた。

そこで、本研究で目指す子どもの姿に迫るために、私は、次の点で改善を図る。

まず、読む目的を換える。従来の「書き手の伝えたいことをつかむため」ではなく、「読み手（自分）が話題についての考えをまとめるため」という目的をもたせる。そのために、文章の話題に対する初発の自分の考えをもたせた後に、話題に関する文章の存在を伝える。子どもは、「話題の〇〇についてもっと詳しく知りたいから文章を読みたい」と、初発の自分の考えを補完させてくれる情報を得ようという目的をもち、自分なりの読みの視点を設定して文章を読もうとする。

次に、読み方を換える。「自分の考えをまとめる」ためには、自分にとって必要な情報が書かれている部分がどこかをつかみ、その部分を細かく読む読み方が必要である。そのために、文章内容の大体をつかむ素読と、自分に必要な部分を拾い読みする摘読とを取り入れる。子どもは、素読によって文章全体のどの部分にどのような情報があるかが分かり、自分に必要な情報がありそうな部分の見当をつける。見当をつけた部分に焦点を絞って摘読させることで、子どもは、得たい情報を求めて読む。その部分から分かることを問うことで、子どもは、初発の自分の考えと関係付けながら、自分に必要な情報を取捨選択して取り出す。

この子どもに、読後の考えの変容を問うことで、子どもは、取捨選択した情報を引用して自分の考えをまとめ、**自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れる子ども**となる。

その後、考えの変容が成された理由を考えさせる。子どもは、このような読み方に有用感を抱き、他の学習場面でも活用していく。

## 2 主張する働き掛け

話題に対する自分の考えを表出する形式として言語活動を設定し、以下の働き掛けを行う。

### 働き掛け1

**話題に対する初発の考えをもたせた上で、教材文の題名を提示する。**

問いをもたせる働き掛けである。教材文を読む前に、話題に関する資料を見せる。その後、「なぜ〇〇が身近にたくさんあるのか」等の学習課題を示す。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、話題に関する既存の経験や知識を想起して根拠とし、初発の考えをもつ。この子どもに、教材文の題名を提示する。推論段階の初発の考えをもっている子どもは、話題に関する文章があること

を知り、「話題の〇〇についてもっと知りたいから文章を読みたい」と意識する。これは、「自分の考えを補完するため」という読む目的をもち、自分なりの読みの視点を設定している姿である。これを問いをもった状態とする。この子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け 2

**教材文全文を提示し、段落の内容をまとめさせる。**

自分に必要な情報がどの部分にありそうかという見当をつけさせる働き掛けである。まず、子どもに、教材文全文を提示する。子どもは、「どのようなことが書かれているのだろう」と、文章全体を読む（素読）。文章全体を読み終えた段階で、形式段落の内容をまとめさせる。こうすることで、子どもは、文章内容の大体をつかみ、初発の自分の考えから設定した「話題の〇〇について」を視점에、**比較するすべ**を用いて、複数の形式段落の内容を比べ、自分に必要な情報がどの部分にありそうかの見当をつける。この子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け 3

**見当をつけた部分から得られる情報は何かを問う。**

教材文の見当をつけた部分から、自分に必要な情報を取捨選択させる働き掛けである。自分がもっと詳しく読みたい部分を選んだ子どもに、「そこから得られる情報は何か」と問う。子どもは、読みたいと見当をつけた部分を読み（摘読）、**関係付けるすべ**を用いて、初発の自分の考えを補完するために、初発の自分の考えと見当をつけた部分に書かれている情報とをつなぎ、自分に必要な情報を取捨選択して取り出す。この子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け 4

**自分の考えがどのように変容したのかを問う。**

取捨選択した自分に必要な情報を取り入れて考えをまとめさせるための働き掛けである。学習課題を再度提示し、この課題に対する自分の考えがどのように変容したのかを問う。子どもは、自分に必要だと判断した情報を引用して、話題に対する自分の考えをまとめ、**自分に必要な情報を取捨選択して読み、自分の考えに取り入れる子ども**となる。

この子どもに、考えが変容した理由を考えさせる。子どもは、学習を振り返り、自分の考えを形成するための読みに有用感を抱き、他の学習場面でも活用していく。

### 3 検証

#### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を用いて、課題解決に必要な情報と既存事項とを関係付けることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

#### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け 3 により、関係付けるすべを用いて、見当をつけた部分を摘読して、初発の自分の考えを補完するために、初発の自分の考えと見当をつけた部分に書かれている情報とをつなぎ、自分に必要な情報を取捨選択して取り出しているかを、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け 4 により、自分に必要だと判断した情報を引用して、話題に対する自分の考えをまとめているかをワークシートの記述から検証する。

### 4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(6月) 「くらしと絵文字(教育出版3下)」(7時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「ありの行列(光村図書3年)」(8時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「すがたをかえる大豆(光村図書3年)」(8時間)